



繪本
豐臣勲功記

七編
拾

2209
70



門へ遠13
種 2209
巻 70

北國平均



繪本豊臣勲功記七編卷之拾 目録

柴田勝家共小谷賢自殺 属 北國平均

小鴻新五郎牢城の圖

勝家小谷自殺の圖

波牟落城信孝内海自害 属 秀吉刑邪

同圖

江州坂本秀吉嚴弘賞罰 屬 盛政徹言

同圖 賞七勇士

同圖 罰盛政勝久

粉川法印助祐久同兄弟 屬 謀陷霧坂

同圖 粉川法印諸窶士と招く圖

同圖 法印猛勇霧坂の城と陥る圖

繪本豊臣勳切記七編卷之十

櫻澤堂山 編輯

柴田勝家共小若賢貞殺屬北園平均

老樹樹まんとまま根多く古池酒まど水そきん

後北庄の城中一対凝守べき個よい佐久間十藏

浦九兵衛松平市左多の溝口半左衛門小治新五郎右

野原之清一子同苗右十郎大夫長右衛門中村与左

門同一露齋候既小廻文利と等しくも一審小と

城中一弛集りぬるそれが中ふも佐久右十藏政経の意

年積て十五歳いとけり云と虽ども武勇の壯士

小百倍に遠十藏に去年の春前田又左衛門の勢と成て



在ける。既小宰城せんとするときは、家臣輩諫けるや、公
 い未ど、清幼少し。殊小利家の府中の城に在て安途のよし。
 穀田の逸相奥村より稟送てあるものを、快く府中へ潜去
 し、五ひ一身の安途と料を多くし、恥も敢て十藏政経、臆
 き執言ぞ。父帯刀、勝家君小督奉りて、信長公の直奉
 りて、安土小在り。喧嘩の甚ふつき果らまじ。幸、汝悔
 が、知知と、我幼少なりと、是ども勝家小呼返されて、過分
 の俸給を賜ひ、その恩澤、清くは然あれども、又妻小思
 絶ぬ、母の由、身りとくおえま。利家小好あり、むんは、結句母
 への孝行よ、武道とも、弁、右も、做、たも、做、適、せま、き、道、も
 あらんが、整、前、田、よ、好、と、結、ぶ、苦、し、こ、よ、最、後、の、際、小、念、の

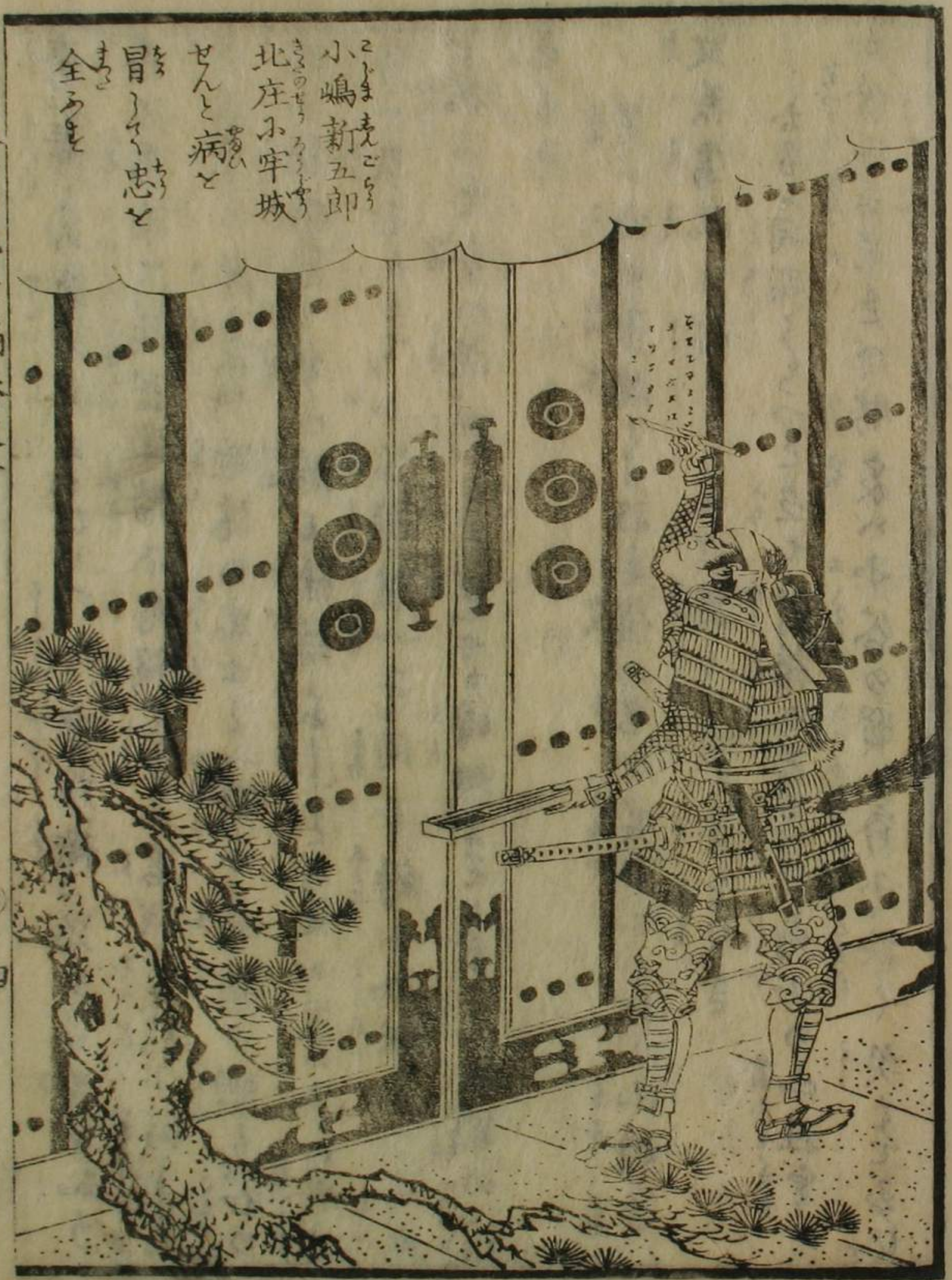
残る、い、獨、の、老、母、を、り、ける、ぞ、お、む、切、小、養、ひ、す、の、う、せ、努
 と、殊、遠、を、ぐ、り、ら、ん。此、一、條、を、統、む、る、う、へ、い、持、命、を、ん、ど、お
 も、ひ、も、よ、ら、む。鄙、怯、懦、弱、の、名、を、帯、て、淫、嗔、を、當、り、こ、と
 苗、字、の、祿、ま、先、祖、へ、の、不、孝、な、り、再、禱、せ、ざ、れ、と、言、教、ら
 て、お、の、名、小、ぞ、籠、ら、ま、こ、と、る。松、浦、九、を、清、家、時、是、い、後、赤
 玄、蕃、が、居、城、加、州、金、澤、を、安、属、し、者、な、り。最、も、瀧、石、乃
 忠、義、士、な、れ、ば、弟、二、番、小、宰、城、を、松、平、市、左、衛、門、玄、蕃
 小、仕、一、賊、嶽、の、残、小、切、と、も、て、名、を、騰、り、り、ど、も、腕、小、疵
 を、蒙、り、ゆ、え、退、去、し、て、在、ける、が、父、と、も、小、宰、城、を、こ、れ
 三、番、の、登、記、な、り。四、番、の、溝、口、半、左、衛、門、是、い、勝、家、の、養、子
 此、本、田、伴、如、守、が、家、臣、よ、て、後、赤、木、の、名、小、を、養、せ、し、ゆ、え。

快より此座小在けるを勝家才左衛門小言けるい汝い平
 が家治と云よも相む。家小忠義を達より速小出城して
 存命せよとありけるを溝口あづく推返して遠い希有
 却後こそと度よ侍まども某身克道の殉供して君小
 背々の伴たる友の石孝の罪と仰も賤ひも小存念され
 ば枉て牢城を赦させり」と強て籠城小迫り
此溝口や在東門に毎田大隅
 の又五番小侍新五郎忠朝あやうくせんろう生憎瘡癩の病なりしが居士の
 肩小投られ城小投とかせあまひ响面方の門の扉小懸して小侍
 若狭ちが男子新五郎忠朝享年十八歳依病死御瀬境へ不出
 張唯今牢城達忠節早と筆の墨宿解小書記して牢城
 是才六番い吉野右十郎藤榮享年廿二歳成が父老慈で是と助

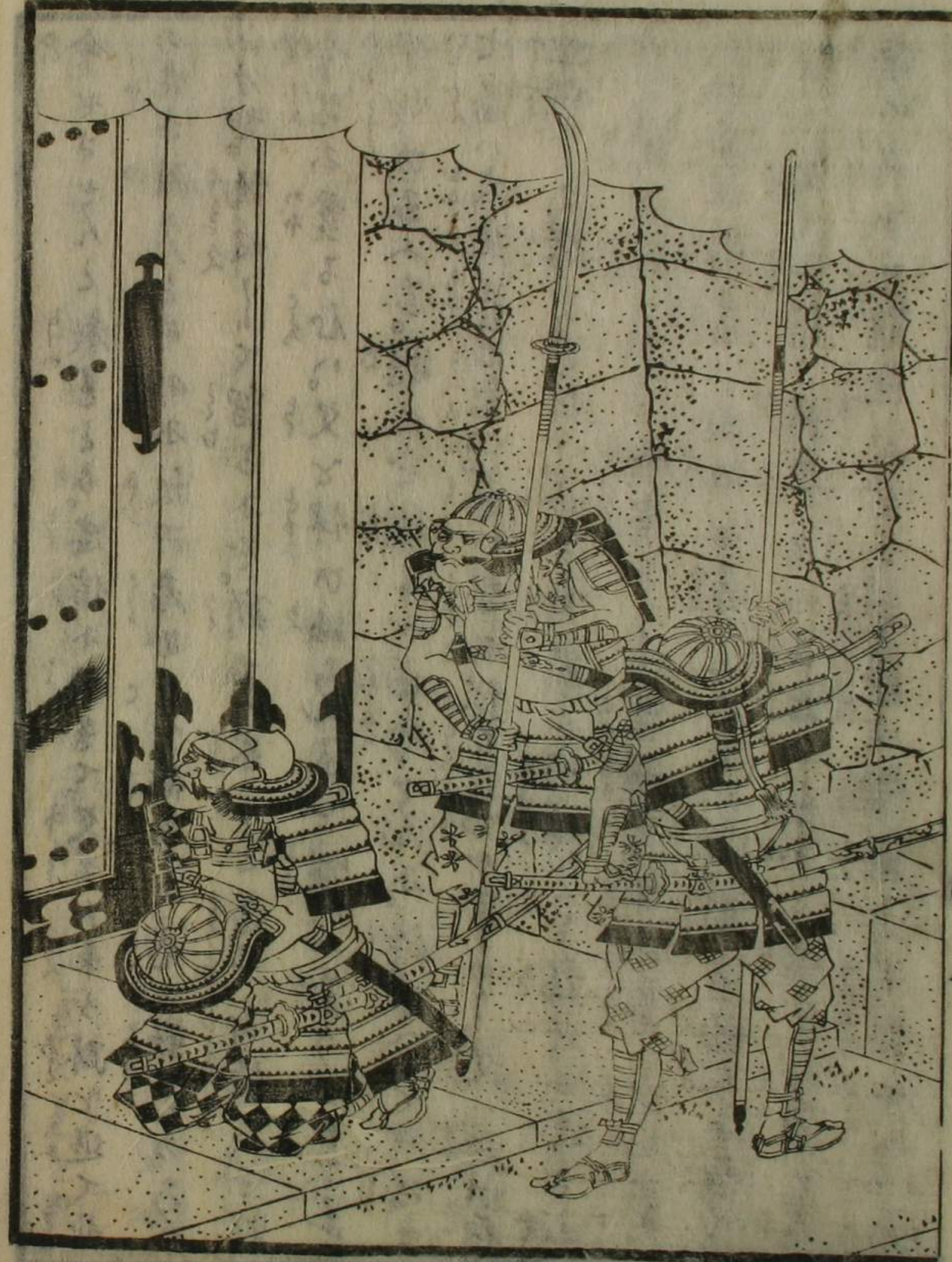
命せさせんと教まども忠信小頑きて父友夫米が跡と追て北
 の庄小住くとま時小祖母老母多と借小一。老の歎息のある
 ぐけぞ。胸吸して留る小ぞ。斯て八果とと及十部侍て。それ
 今然小登る心い。父と伴ひ改らん子と懐へばあり。うまのふ
 案願ひむふす。聽てを親子が百舎せん小。待玉へとて牢城を
 七番ハ大矢長右衛門。是ハ柴田孫右衛門が子あり。父ハ既時叔
 牢城して帰らざれば。母と自鬼と姉妹とと福井小近き山
 中へ送り候しや。胸安ふして牢城を。第八番ハ中村兵元
 乗つ。是ハ勝家と同郷の産ありり是は。睦も他人小裁て
 除く。別て弓馬小練達あり。主君小死出の供しまのせ。孝
 落の鬼とも射伏人むと。喜就て徹籠る。其餘中村一彦

こまきんごろう
小嶋新五郎
きたのせう
北庄小守城
せんしと病
せんしと病と
冒しつゝ忠と
まろし
全ろし

豊臣巴下編卷六十一



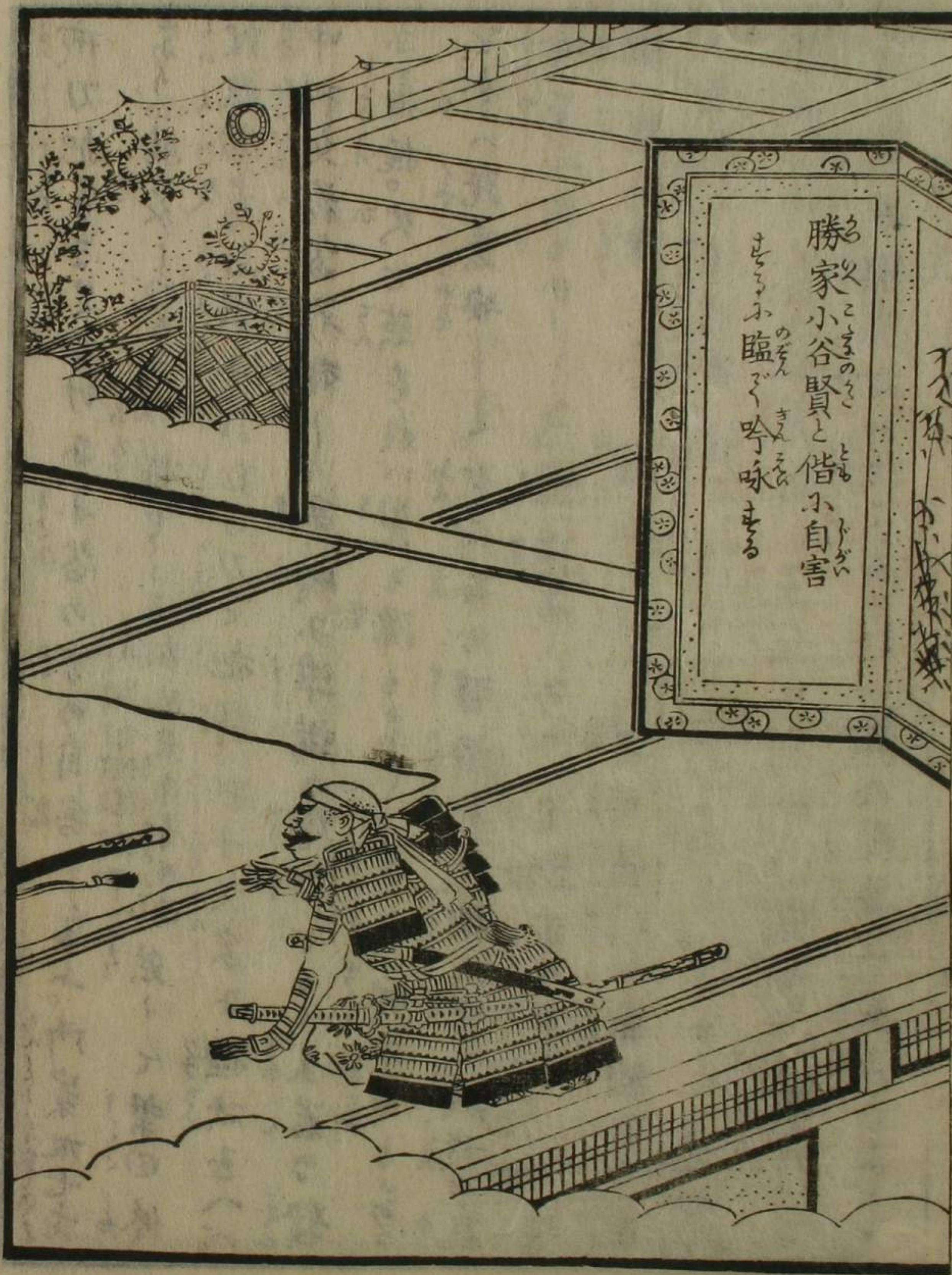
豊臣巴下編卷六十一



齋。舞の若太夫ありハ門守。寨樓衛。以ゞも義と知り
忠と存して。主君と借し自殺す。名成万代不滅なり。
終る。おと不務家ハ。遠信の忠士と一齋。余期の醜り。心の
礎不献破。今ハ終る後端ありとして。北四日の未の央生
害し及むんとて。小谷殿借し一。同し得し跡しつ。白又
と搦して今ハ既。斯よと見ゆ。時機こそあは。山杜鶴の情
息るよ

夏の夜の夢路もろ形き後の名と雲井しおげよ山時
文若富前不候しつら。恭くしくよと又き
おもふ同朋うちつと立て行旅の志るべや死士の山杜鶴
と吟で言呈まば。勝家ハ小谷の賢一齋。快く笑をせむい

戒刀把もまよゆげし。小谷の方の自害し。御案廿七
あり。勝家らうろくお措せしる。在洛東南春源院。然して柴田修
理進勝家。心静し義弘の刀と把。妊十文字し搔攻むへ。バ
中村文若富し措し。即時し準備の焼州をもて。主君の發
し覆掩。火と慈むれば見る際もあはく。奉丸一時し炎とある
と。今ハ既意安し。文若富も腹搔割き。焔の中へ跳投ハ在
會勇士おもひく。不。傷腹するあり。自剗するあり。百十條
個一様し。際しこそ殉死し。其外弦門と率固各士或
ハ城外の後進軍。多し忠義し死と遂る。そもし柴田の
系圖と縋ハ。清和源氏の末流ある。斯波武衛の一旗ありて。
原ハ越後國柴田の臣人ありし。織田信長の家臣とありて。



随一々盡忠を。先年北國の播磨に任ぜし。此國にして六
 十四万斛と領受せし。一朝の風雲と消て國郡を
 さへ亡失せし。惜むべき終始あり。遂に植村太左衛門といふ
 者あり。甲冑の上は經帷子の表張し。率隊せし。勝家
 膝下近く召侍せ。汝の姉の末森とのへ来るべし。それより
 久々女竹姫を遷途をも料理べしとありたり。植村志きり
 不辭されども。再三運緯不造む。其命も亦不
 忠ふ。あつんと。細末がう。不泚茶と遇出。末森殿の鼓子系。不
 泚二賢と勅めまのりせ。推野の澳の幽谷ある。竹田といふ
 山巷に。伴ひもり。植村密に懐ふや。此方遠く山深ふして
 此の庄の勅辭も知ざるべければ。假接して二女と慰めたり。

と云夫を。二百餘ある。廿四日の末の刻頭。此の庄の天守炎
 上せし。覺し。見えて。南の方不烟移く立登る。二女連くも
 それ成り。植村看ら。是は彼烟の勝家君の率去ぞや。自
 悔も借不後ま。と末森殿
 今爰亦六十あまりの日の數と唯一時不返し。ける。お
 息女竹姫
 思ひまや。竹田の里の。母もろとも。不泚人ものとい
 稱名と共に。喉搔到。植村洞。不刀と。薩。土方の首。刺まのり
 せ。傍三四個と。請侍して。後世。過。若の。修。乃。委。置。自。身。も
 自殺。不。速。び。し。と。ぞ。然。布。ど。不。止。の。庄。の。本。廊。炎。上。し。り。れ。ば。
 秀吉。喜。悅。の。名。を。呻。き。い。ろ。不。細。川。一。吟。あり。ゆ。と。宣。ふ。時。

昨日まで城と修理する勝家も多ふへ柴と灰と成り
 といむささるれば秀吉大に感しあひ。元五日に。城の掃除を
 おふせつけらる。先受が忠死を感ぜらる。母妻子あど子恩
 賞と賜ふ。城ハヤぶら徳城とくけて。人殺をこめ。番城とせらる。
 これハ城と臨得る。定法あり。元六日秀吉加別へ出張お
 り。又三日滞留まじく。一番小田田利家と呼出され。加
 賀能登半國づと賜ふ。此時より加賀合澤の城主より。
 五月初日城北庄小帰らる。丹羽五郎左衛門と召出さる。
 越前若狭二ヶ國加賀のうち二郡をつらたさるべきむねと。命
 牒され。都合百萬斛あり。五郎左衛門とあり多り。丹羽越前
 守と名のりまじり。是單小運遭の軍功也。是あり。遠度

両家秀吉の命と受ること。城小公命の如し。同じく三日
 には坂本の城まで帰陣しあふ。是中川瀬平清秀が。あ
 死と惜ませる。息子潤之助秀晴と修理太丈小あそを
 され。感状あり。び小本領。安達命付らる。儲又一首と係し
 多ふ狂哥不曰
 思ひきや潤あり。康あり。武士の同一潤。康不身と既とい
 所洞と共不弱り。信又越前之寨造保の時。陸進とある
 不依て破却せらる。神社佛堂の分と。奉行小命せて
 再興ささる。其外兵糧技役等小苦困らる。郷士百姓輩へ
 恩賞あり。右管笠の用と達らる。百姓どもへも。山褒義の銭
 米と賜ふ。不破と名に。原光次郎。徳山五郎。合資五郎八

倭。近國の法士降参を乞ふる者と秀吉余これ以て叔。本
領安途あさし。めあふ。茲小佐。内藏助成政。北國開争の
頭時より。虚病不癒せ更ふ。柴田の出軍不關を。運伐兩
端不撤在。好業方十分の勝軍とあり。由え。
秋の使者とて。一女と出質して降参し。り。上校
景勝も。いよく。和平の睦使と絶た。加之加越。以濃の四
民輩。踰る。秀吉へ。沖礼言上。り。ゆゑ。それく。惠
賜せ。し。し。

岐阜落城信孝内海自害属 秀吉刑邪

一朝旭日瞳く。万里の霜雪忽然として消る。粵小
城回三七節侍。後信孝へ。過時四月上。津柴田勝家と勳し

て波阜稻葉瑞龍寺の三城小。源部とるして。楯籠守らむ。
依之秀吉小。好業美濃守秀長の執権。藤堂源助。高虎。
三好孫七郎の家。幸皆川山城守。氏家内膳正と初して。
進兵二万。修人と嚮てせ。が。後小。軍勢二万。小好ま。り。然
共北國の助力と頼小術と錫して。防戦しければ。本城堅固
小。く。ける。あ。る。小。廿。日。月。の。晚。小。及。び。美。濃。守。秀。長。の。家
臣。小。門。下。邦。守。堀。近。く。馬。と。駈。進。せ。城。小。向。て。呼。り。ま。る。や。う。
此。四。月。廿。一。日。賊。嶽。の。一。戦。小。五。番。盛。政。権。六。勝。久。と。活。捉。
廿。四。日。入。小。の。庄。落。城。して。修。理。進。勝。家。自。殺。あり。小。国
一。圓。小。平。均。せ。り。今。一。軍。城。も。益。な。り。る。べ。し。城。を。早。く。去
べ。し。と。大。音。聲。小。呼。り。ける。が。城。兵。これ。を。聆。と。り。ど。も。敢

の謀計からんとおもひ。一のびと出して窺いしむる
 小。いよくまことありけまば。城中頻小騒立。とても軍
 城傳まといりいせんとき、やき合し小。尚存の子他
 過る刻願。斎藤玄蕃頼龍之稻葉刑部大捕貞之岡本
 五左衛門康元俣上方勢小加えらんと駈出しり。雜
 兵輩次第こ小城と出て。廿六日ハ進兵の人數六万こ
 及び二城とを圍で攻起ける。稻葉山の大将圓平九郎。
 國分佐渡守堅固小治ぎ我ひしりども。自方の徒を大
 半落散。一二の曲輪も攻抜り。今ハ是まむなりと思
 断。百人小て斬て出。敵と右横左横。又退
 敵。八十餘人おちてお丸を。時小平九郎二十二才

あり。兄平八郎ハ信忠卿と共小。京都二條の城にてお死とけ。
 兄弟共小無双の勇士あり。國分佐渡守も大不撓。四十九才
 不てお死せり。白瑞龍寺山。織田新八郎信包。孝信濃
 守。平田壹波守も一万余餘人の進兵小對し。さんぐ小我
 ひしが。自方或ハ落失。或ハお死しり。城を抗せんと
 勇もり。老黨共いさめて。死ハ一端小して易し。信孝の
 所先途見届け。その後りもあり。五人といひり。最
 とおもひ大敵の中を斬抜。波阜城小並入り。三七信孝
 大不撓。一万余不安吾と極めんと勇まれり。三城の進兵。六
 万余人東西南北より退取巻て。漏れまるとぞ攻着り。
 城中不落残りし勢。三子五百餘人ありり。信孝。信包

三方不切て出。難立難倒し憤死留不血戦して。進名と
 二百餘人歩捕。三百餘人小遊と負せらるる。人むむ三の廓
 小遊より。城名も亦二百餘人怒提。無と負せあり進去
 あり。防名最も減少しられ。その款元廓へ退去て。是あり
 むも休息しり。進名に強陣の交代りし。それがあつふも
 筒井の勇將松倉右近。小田切宮内。二子條跡ふて馳加えり。城
 攻の弾礮小遊。一應侍從若と脱を申とて。松倉右近城中小
 投り。信孝子對面して。和睦の程と論し。まのうて。言と
 登して脱免しり。偏執深き信孝なまは。若くしが不
 應る中。若其癸端勝象と盟約しる軍ふりて。その合
 戦不致止あり。是善し。勝象と見殺おし。若猶い

うて長生及あらんや。君いやくも秀吉の王家不生也。集が
 幕下不折膝なる緯。万代不滅の耻辱あり。恥さへ耳根徹る
 るぞ。快立去と叱り罵り。若ふ事食あうざれば。右近も今ハ
 力あく。寥ことして立返る。此時城名松倉右近。符のうち小勇
 と啼ませ。落城迫き不ありこと。脱命しる理不届して
 怖氣つき。信孝と只後勅めて。因城あきと言上る。原来
 意味の信孝なまは。遠くも無らむして。改阜の城と森玉
 ひ。尾ぬの方へ赴くと。至後僅十八人駒の蹄行も哀哀不縮
 糸の嵐不吹送らる。名跡と後小次郎路と退出。此も昔ハ
 故々とおもへど。今ハ恃まなき。身の危張ある野間の庄。内
 海の里小来不らる。勃然雲不碎り。雨さへ送致遮るる



豊臣巴一編

幸田倂ゆきだひら 欺あざむ 信孝のぶたか 兼野かねの 間の内海まのうちの 大師堂おおしどう 自殺じころ



豊臣巴一編

大師壹小暫刻とて侍齋一玉ふ時。侍従の家臣素田次郎
 兼つといつるもの。鬼くくきんより。堂と荷櫓らひ伝孝小自
 殺と勃め濟首と擧まらせて。そ成功とし秀吉の賞と清人
 と。清まりしも慮り。處も幸ふ姓吉野間の内海小義朝と。
 長田の庄司が擧りりと。軍傳えたる故車も。その殺固や引
 めらんふと。急ふも叫呼がましく。博知面小叫合。侍従の
 兼子跪き。此地へ姓昔義朝君の自殺しふ吉野あり。今
 此辺の流言と聆小。羽柴の軍配まるくして。藩人ふまき土民
 小まき侍従君と擧ものあつべ。褒賞莫大あるよと徇示
 しつりと告るものあり。然まれば行先小過失ありて。敵把や
 々のふふど小羅り。無慚の終と一玉えんより。此御堂

小て潔く清生害ましまさ臣儕も殉性仕らん。たや彼と
 なくと動むる小ぞ三七度も終小もとお不さま。武士なり
 ら最優しく本意小向て殺十遍ちうり小念仏一五ひ
 狂搔破て滅五。春は廿二なりとぞ。まが中ふも忠臣
 義士。十餘人殉死せり。愈息絶るを親徹けて。素田ふ心
 を同ふせ。遂後六人主従の首搔割て脱起清所跡と清
 り陣小組候一内海の始終を祈り。筑前守聆一めこれ
 驚嘆一玉と大うさあは然として還ること小もあら
 ねい厚く葬孔なり糸らせ。諸士小鷲めて宣ふ中。吾
 原天下の為と懐めて一遭は阜を因と。虽も正しく主
 君の血統小ておた一ませ。如何むり害むる心あらんや。

其故ふくも。強ち城を攻むりて落し棄て知らりそと長
族の身をもめて胸怖しや殺しなり切面不許首を呈
げ来り。人非人も鬼畜とも名づくる方なき残忍
不道邪る不忠の殺人。武士の懲澄ふまじしと憤怒
まじし。素田をすどめ六個の逆佐と重く刑罰せし
まし。看輩所輩快縁とそ噪離しける

江州坂本秀右嚴礼賞罰一属盛政徹言

水子清濁あり金小利鈍あり。本小曲直あり政事
邪正あり邪正と礼さむん。礼をりて治ふるし。皆
備り秀右江州坂本小室陣一の遠遭縁獄小
於て軍切ありし。七人の者を石出さし。屢織ヶ獄の働

を賞賜せし。従来俸祿を改併小何量賜贈つる
やと御報有けまじ。加藤虎之助の七百五十石四百七十石。福清市
松の五百石。加藤孫六の五百石。平野権平五百石。昭坂甚
内之百石。糟屋助右衛門二百石。片相助他五百石。秋の如
くふいなりと言條。一奉つる秀右改めて命せけ
る。遠遭の莫大の切小より。七人共小三千石づく。加増
まじし。と命出され。別ち御威愆を。下至る。其言小曰
今度之七殿依謀叛而濃別大垣。今居陣に所
柴田修理進從。越前國出張。干柿。素子之。及
一戦一時。馳向於秀右。眼。前。合。一。番。捨。之。働
之。比。願。い。為。其。褒。賞。二。千。石。宛。以。就。弘。く。向。後

依奉公之忠勤了致加増領地者也仍如件

天正十一年六月五日

秀吉判

加藤虎之助辰

後橋市松辰

服坂甚内辰

片桐助作辰

加茂孫六辰

平野權平辰

糟屋初右衛門辰

此中加藤虎之助が感懐の文面列て褒美賜ましとて儲

其羽直日七人共不昭出され兵將不命付らる虎之助不ハ
後炮百五十挺伍長六五務と安属させむいづるも任進
せさせらるる
干挺不与カ
元五人より

加茂虎之助清正とバ

福嶋市松正則とバ

加茂孫六嘉明とバ

平野権平長康とバ

服坂甚内康治とバ

糟屋助兼の武利とバ

片桐助佐且元とバ

主計頼不任せらる

左衛門大友不任せらる

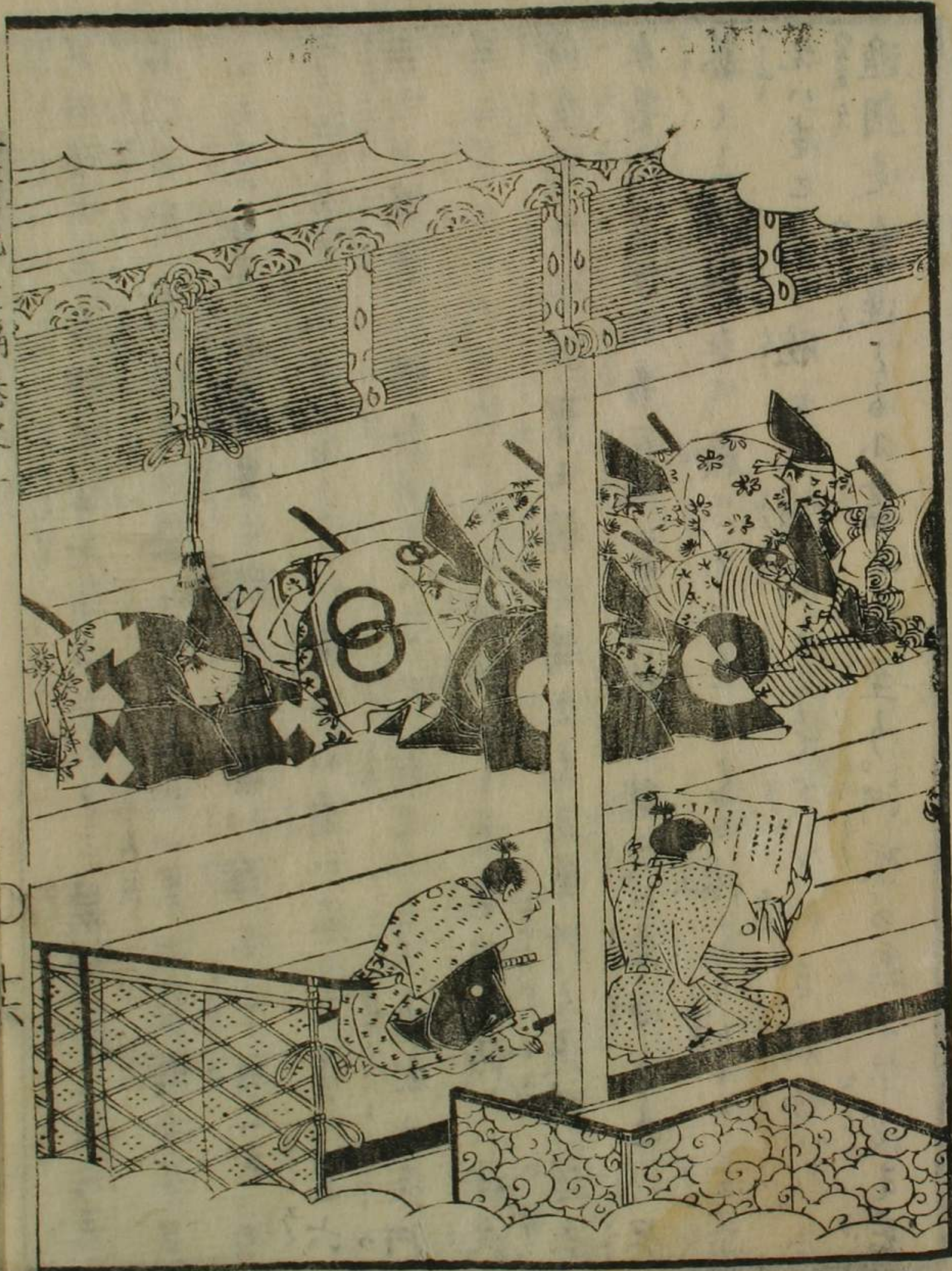
左馬之助不任せらる

遠江守不任せらる

中勢少輔不任せらる

内膳正不任せらる

東市正不任せらる



北國平均
軍と坂本
歸さま秀吉
七勇士
褒賞
せしむ

其目言七勇士

一五

其外接井左右伊木半七も。それく褒賞あつせらま
 石川兵助ハ戦死せしむ。舍才長松一宗と。家督ふふさ
 一の老母ふ人金帛多く賜り。退福町寧ふ人付らま。の
 ころうさふき大度ありとて尊まぬ者ハふりたり。翌六
 月七日勝家の條殺のころむ刑罰せんとして。京於六条河
 原ふ撃出され。それく不殊戮せしむ。最後に残るハ佐久
 同玄蕃元盛改柴田推六勝久あり。奉行人浅野弥六
 系長改石田佐吉三成あり。推六勝久ハ年少りま。只
 萎くと低頭在て。強ふおまきかある体ありり。か玄蕃
 元ハまこしも脱せぬ憤然として天と仰ぎ。宿願あつ不
 適得む。命運とも不盡る期至り。河原の霧ふ平没む若

吾先日。伯父勝家の命令ふ隨たむ。秀吉もて勝家の威
 七と取らせ。汝併もて吾ごとく殊戮不伏さしむべし。果報
 つしき筑前ふかと罵立て羅ざる。將しと里へ石田三成。こ
 ろと听て嘲笑ひ。噫愚あつ玄蕃元。這期不遠で齒も徹
 ぬ。我慢の廣言嗚んより。罪人傑く念佛唱へ。城場不帰や
 と呼たつころ。玄蕃盛改听もあへむ。大の眼と歳と肝を。
 中おと三成汝像の匹及ふして。豈武士の本気と知んや。案
 不勇士と辱むべし。性日平治の戦ふ。有係猛傑のまこえ
 あり。悪源太義平ご中も。運つきぬまばら。如く橋とあり
 て死に至る。汝併如蟻蟻同然の身ともつ。大勇と録らんこ
 と勿体ふ。汝も尙時を得て。套と極めふ。それか。如く

怨と残して盛政
勝久六條河原
刑せらる



橋とあり。迄不ふして死せんこと必定あり。其時思出まへ。相子不あるも無益なぐ。盛政が末期の一向の忘るふと。敵暴くしく志くりつ。其後淺野長政不向ひ。料紙硯を抹て辭世と殘ま

世の中を廻りもたぬ小太の今ぞ火宅の門と出らる

新條トて正念亂さば殊せらる。不得止國みて鬼玄蕃と。まき一ちどの勇将うかふと。譽ぬものハありたり。まき久ハ尋常不殊せらる。玄蕃の生年元八也。勝久ハ十七才あり。开由佐久同ハ大學女の嫡子あり。右衛門尉佐盛の甥柴田勝家の姉の子あり。加治金沢の城主。太權六ハ勝家の妹の子あり。伊賀守と不和ありしより。譽

子とせり。是れ竹の庄の後をなり。さしも子名ある人くも。時運のあらら一むるゆい。是れ水もなき時身し淺野孫也。清石田佐吉五人ハ軌制の如く。二人の首と鳥本小曝し。遠阪主君一言上して相悔けり。穢小去蕃が最後の一向。奔るる我怪る。後年石田三成終小六糸河原にて鳥首り。不思後まりける先言なり

羽川法印助法久る兄弟一属 謀陷栗坂

毒木ハ敵ありと摘ままば逆小芥を用ゆり。其の理ある。其の従末柴田の一族悉滅し。了ると虽も。其が中子死地と脱命を持つ兄弟あり。是れ佐久る玄蕃が弟なる。久左衛門安継源六実政なり。幸も敵の用を披む。伊勢路

大和山越して紀州なりける。根来寺へと南へて飄流て
ゆく。遠招未るの任職。務川法印密地と云る聖子あり。是
ハ母方の叔父ありま。只顧見を侍人と欲し。幸も彼地へ潜
行。至家の叔父と品禪。暫候て在るうち。不誠前滅亡。持家
盛政。務久まん。残るく。命の祠を所。鬱憤の情中り
さなり。然ばとして秀吉の威勢益盛なま。惣不双舞面とも。
塙城。又成りものと。只際く。先み。如く。く。べとありける。と。は
平密地の。門。ぬ。た。武勇。小長。ト。智略。小富。随侍。の。後。役。も
多。け。ま。ば。平。生。己。と。驕。慢。して。三。千。界。とも。吾。易。く。く。んと
包。飽。や。く。怪。く。信。久。る。兄。弟。が。氣。を。励。し。方。僅。候。不。死。と。遂
とも。泉。下。の人。北。忠。信。と。ら。む。咆。も。脅。力。の。途。程。ハ。助。得。と。也

んむる日のし。若び義兵と翻さまよ。其方針こそ。近遠の塞
人。所。武士。と。存。摺。して。先。河。か。なる。之。国。傳。霧。坂。の。城。を。攻。拔
べ。多。き。那。地。ハ。要。崖。固。し。と。岳。も。城。主。ハ。羽。柴。こ。ち。ま。あ。る。を
長。み。く。扱。不。足。ざ。り。弱。年。軍。なり。吾。儕。情。地。不。推。進。て。彼
城。と。乘。取。ば。地。窄。多。れ。ども。怨。敵。を。悩。さん。ふ。ハ。鉅。境。を
り。ま。し。り。南。河。内。小。向。て。長。所。烏。帽。子。形。と。攻。陥。さん。然。る
ま。ば。汝。儕。が。本。意。も。達。し。勝。家。を。攻。が。精。靈。とも。響。答
ま。る。不。足。べ。し。と。勇。氣。と。合。で。効。多。る。り。ぞ。信。久。る。兄。弟。お
不。い。不。曉。表。し。然。あ。り。ば。片。時。も。速。小。精。靈。人。と。存。摺。未
ち。ん。し。密。地。安。繼。実。政。三。個。が。思。く。く。山。所。と。繼。細。り。強。氏
所。武。士。と。呼。集。む。法。り。る。程。よ。尚。時。ハ。之。好。松。永。明。智。の

残黨も諸方不降互々つが列て紀列大和河内山
若沃深りりけるゆゑ多く横行しける機舎り。粉門
は中佐久るが親お日なり。大内裏人
松彈正方事の上杉裏人山若松を走し好裏人下縣を庫
助朝翁裏人村井長方事門松永裏人警山十郎を清霧侍
主膳みど云儀談志是羽柴織田が為小賊されし積船あ
まの忍地一校同心して金鉄の義盟と結ひぬ响に粉門
は親密地一針と工夫し得てその配源とるさるんと
佐久間兄弟霧侍主膳り百五十名の兵と附屬し佐
左牧方の源なる。底深き林中お埋伏せさせ村井を
方事門下縣兵庫お百人許の所武士と南副これと

霧坂の東ある谷間の茂叢に設置し強と陣小隊しり
然して礮山十部兵と使者とふし。淺野長政の隊下あり
と欺倍伴僕と四五人率伴て。霧坂の城へ走らせり。諸又
粉川法印の力石小平太と二隊お仕立て。一百七十餘人と隨へ
情く地不霧坂の城門さし推進る。這响の細作お。松彈
正方事つと百姓の態お打拵せ。街道條お徘徊させり。山
谷伴太史もこれと助けて。行高の搦お看せうけられ。それ
もと知る軍もあ。計略十分お備ふり。最お羽柴三
左衛門右長ハ大將秀右の命と被り。河内霧坂の城代と
り。法方の故道よりやう亡びて。迎來の稍干戈お怠り
困然として安座しけるが今日。晡天の央とおおへり。西山

鏡氣と養
 みの間勝家
 佐野女ふ
 戯想
 系子と
 留しむ



豊臣巴八編下(一)

九

豊臣七編卷之十

九



陰の布のぐき頃城外遙不沙煙とち。遠城と當て馳來る
 紐馬。門外不來て鞍より跳卸。扉と致て大音あげ。是ハ
 宝寺より急用ありて泰向ありし使士あり。傳云あま
 と呼たろり。吉長の家宰東条武太丈佐原清右衛門
 倅おをひ不候平主人不達して彼使者と定る席へ通し
 たり。小居ハ淺野長政が隊下。黒川丹下ともふまものあり
 運遣主君秀吉公。もつとも火急の所密候あり。三右衛門
 直く不。寶寺まで所発駕さるべく。親家ともふし急用と
 是ハ書翰不候を乞へて蚤く所出都去るべし。君の所候意
 切急なまへ。万事と圖きたまや快く。所準備おつと上らせ玉
 一殊不忙しき使者の性來。殊忽おが所辭去と。慌去

げ不辭返る。東条武太丈主人不告て。秀吉より一の書翰
 ありし。所てハ前後も辨なく。虚実と楚と教正もや。城
 代羽柴三右衛門。佐原清右衛門と後陣おろせ。城ハ東
 条武太丈と留守。雜卒百人許と率ひ。寶寺へぞ出出り。ハ
 無謀疎略の所候あり。即今此不黒川丹下と偽名なせ
 して。所地鑿山十郎右衛門あり。あんの苦もや。羽柴が
 務と。欺果せて城と出。粉川法印が許不馳行。期と知ら
 せて暗号と窺ふ。駒不斥候の役と力る。板陣正右衛門ハ霧
 坂の城外あり。小堆き丘不窺ふとも。知らず。羽柴吉長主
 從。霧坂出馬して。佐太の杜不幾く頃ハ。西の下刻あり
 り。由急前後不炬火振照させ。閑然として忙行く。其ハ

刻分宜と彈正左衛門。務川が方へ注伸あま。これより
 て密地が軍兵。旗と伏せ救と合ふ。霧坂近く潜進。暗
 号の露籠と振返せば。願て潜むを置りし。村井長左衛
 門。下縣兵庫助。そまゝと着るより。務川が勢と。喊を合せ
 鞞鼓と鳴し。山上谷間不向うせて。大軍暮地不進する相
 とし。只一樓不攻陥せし。息とも次せむ攻め。城申出馬の
 証不して。小物かまふ。懐設ぬ事あま。魂断をくりし
 騒動あり。弓よ刀よ。武具よと。慌忙き走返る。殊不月
 の馬周旋。故の多少も視分らねば。防禦の方使もせざ
 り。りりゆゑ。進兵の苦もあま。悔際まで。密くと推逼る。
 乘破らんと。羨嘆る。城の内。東条武吉。丈衝く隙

位調備られ。法率不指揮して。砲矢と惜まぬ。雨と霰と
 放彗あり。礮石垣不攀上まば。長標ともつ。搦墮せど
 防兵の疎不して。進兵の密あり。それより。法印指揮
 して。面門の固戸へ向へる強兵。五十餘人が。願てより。半
 備あり。幅極めて。門扉と樹く。あせし。布と不。鉄石
 あり。保バ持得む。別然として。碎けり。其をやと強兵
 先と争ひ。殺投し。猛勢の。あども突ども。突とも。せむ
 曳く声して。亂入し。まば。城兵方。僅に防ぐ。不。御あり。金
 散く不。逃走る。東条武太。丈今。いと。幾。頻と。覺。期。は。混
 投。故の。當る。城。より。と。四。角。八。面。不。薙。起。く。敵。方。の。瘡。不。滅。の
 糸も。紅と。灌。拭。く。如く。戦。不。際。不。敵。の。大。將。務。川。法。印。と



勝家の妻
佐野女
自妊児
尋得
柴田の
系図と
傳ふ



眩と視て。遁しハセドと虎憤一殺。跳で惹ると法印密地
 馬頭と避て行る。猿臂と斬て東条が綿齒と無防と
 搏す。弓長期丈抽着まば。進兵これ以亂走。首脚とえ
 らまげ相止しり。坂谷方僅ハ孰あつて。遮ふべきうハ右傾
 左倒し。空御を走して逃失しり。進兵ハ難多城と乘
 取。大將密地脱悦ふ。まが牧方の自方の陣へ落城
 の由と知らせんと暗号の狼烟と発りり
 佐者曰續譚務密地滅亡の事ハ這卷既ハ竭
 めまば。ハ編不讓りて説べし。其編不臻りてハ
 根来寺滅破。次ハ四國の長曾我部攻と演進
 けしむ金子の智勇。加茂吉川小早川黒田等

の戦略。懇切紀中の妙禪と謂つべし

繪本豊臣勲功記七編卷之十終

慶應四年

二月出板

編輯者東京

櫻澤堂山

畫工浪華

松川半山

出板人

大阪書林

密田茂兵衛

同

同

松村九兵衛

發賣人

東京書林

山中市兵衛

芝區三島町

南區心齋橋筋一丁目

東區博勞町四丁目

